

# 未来をつくり出す力の 基礎を培うために

幼保連携型認定こども園って  
どんなところ？



※ 認定こども園には、幼保連携型・幼稚園型・保育所型・地方裁量型の4つのタイプがあります。そのうち、幼保連携型認定こども園は、幼稚園的機能と保育所的機能の両方の機能を併せ持つ単一の施設として、認定こども園としての機能を果たすタイプです。

詳細については裏表紙をご参照ください。

※ 本資料は、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいて作成していますが、保護者の方などにも幅広く参考としていただくことを想定して作成していることから、国の法令等とは異なる表記も含まれています。



乳幼児期って  
どんな時期かな？

# 幼保連携型認定こども園には

## 発達の特徴

### 0歳児

安心・信頼  
「心地いいな」



### 1歳児

「あれなあに？」 「これなあに？」  
「いやいや！」



### 2歳児

「どうして？」 「自分でやりたい」  
「聞いて、聞いて」 「自分でできた！」



#### 0歳～1歳の頃

視覚、聴覚などの感覚や、座る、はう、歩くなどの運動機能が発達します。

特定の大人との応答的な関わりを通じて情緒的な絆が形成されます。

#### 1歳～2歳の頃

周囲の人や物への興味や関心が高まり、自分から手を伸ばして触ろうとしたり自分の意思を親しい大人に伝えたいという欲求が高まったりします。

自我が芽生え、1歳半ば頃から自己主張が強くなります。

#### 2歳～3歳の頃

言葉も増え、おしゃべりを楽しんだり、大人の真似をしたり同じ動きを楽しんだりするようになります。

「自分でやりたい！」と様々なことに挑戦するようになります。

基本的な生活習慣は、ほぼ自立

## 幼稚園教諭の免許と保育士の資格、両方を持っている「保育教諭」

園では発達に応じた関わりを大切にしています。

子どもの気持ちを汲み取って言葉に出すなど、応答的な関わりを大切にしていきます。

「自分でやりたい」という気持ちや子どもの欲求を受け止めながら、温かく見守っていきます。

子どもの好奇心を大切に。「やってみよう」「楽しいな」「どうしてかな」など、子どもと一緒に楽しめます。

愛情豊かに、子どもの欲求に丁寧に応答していきます。

安全に気を付けながら、全身を使う遊びなど、様々な遊びを取り入れていきます。



発達の進み具合などは一人一人

# 0歳児から5歳児の子どもが生活しています。

## 3歳児

「面白そう」「やってみよう」  
「楽しいな」「これがしたい！」



## 4歳児

「あの子と一緒にいたいな」  
「嬉しいな」・「悲しいな」・「けんかしちゃった」  
「みんなと一緒に楽しいな」



## 5歳児

「どうなるかな?」・「試してみよう」  
「挑戦してみよう」  
「こうしてみない?」「いいよ」  
「友達がいるっていいな」



### 3歳～4歳の頃

言葉や運動機能がますます発達する時期です。

「やってみたい」「面白そう」など、気持ちを表現しながら、自分が興味や関心をもった遊びを楽しみます。

できるようになってきます。

### 4歳～5歳の頃

自己主張し、友達との中で葛藤を体験することが増えるようになります。

自分と友達の気持ちが違うことに気付いたり、自分の気持ちの伝え方を知ったりしていきます。

### 5歳～6歳の頃

友達との関わりが深まり、自分の考えや気持ちを言葉で伝え合うようになります。

友達と役割を分担したり力を合わせたりしながら遊びや生活をつくり上げていくようになります。



小学校へ

## と呼ばれる職員が、子どもたちと一緒に過ごしています。

興味や関心を大切に。自分のしたい遊びを十分に楽しめるようにしていきます。

「嬉しいな」「悲しいな」「面白いな」「悔しいな」など、子どもが感じている様々な気持ちを、ありのまま受け止めていきます。

友達の考えや気持ちに気付くことができるように、相手の考えや気持ちを丁寧に知らせていきます。

友達と協力しながら遊ぶ機会をつくったり、その姿を認めたりしながら、友達のいる嬉しさやよさを感じられるようにしていきます。

子どもが自分の成長を感じ、小学校での生活を楽しみにできるような関わりを大切にしていきます。

自分の力を発揮しながら生活を進めている姿を認めていきます。

遊びや生活の中で、自分で考えたり試行錯誤する姿を見守ったりしていきます。

違うものです。「心配だな」と思うことがあったら、園や地域の施設などに相談してみましょう。



# 保護者が、働いているか、働いていないかに

小学校以降の学習や生活の基礎となる幼児期の「教育」と、  
保護者が就労しているなど、保育が必要な子どもへの「保育」の両方を提供しています。

## 幼保連携型認定こども園の一日

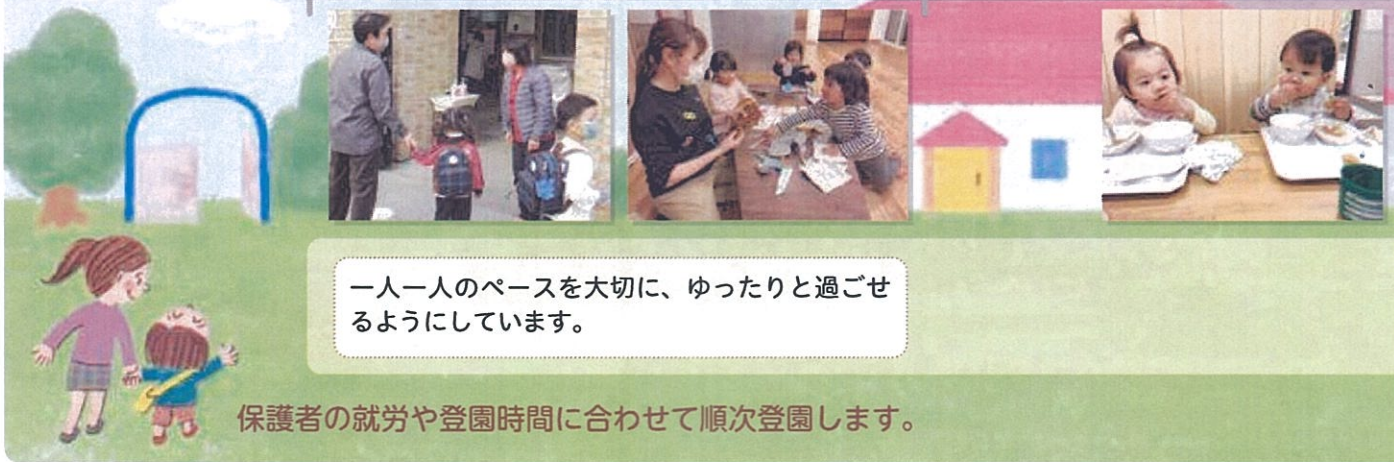
0歳児～2歳児

保育を必要とする子ども

3歳児～5歳児

保育を必要とする子どもが過ごしています

教育時間のみ在園する子どもと、



一人一人のペースを大切に、ゆったりと過ごせるようにしています。

保護者の就労や登園時間に合わせて順次登園します。

## 遊びや生活の中で、様々なことを体験しています。

保育教諭との信頼関係を基盤に



様々な表現を楽しんで



作ったり  
作ったもので  
遊んだりして

季節の移り変わりを  
感じながら



いろいろなものに  
興味や関心をもって



自分たちの  
生活する場を  
整えて



遊びや生活の中での様々な体験が、  
乳幼児期に大切にしたい学びです。

乳幼児期は、身の回りにある環境（人・遊具・場所など）に

# 関わらず、子どもたちを受け入れています。

幼保連携型認定こども園は、「学校」と「児童福祉施設」の両方の役割があります。



が過ごしています

保育を必要とする子どもと一緒に過ごしています

保育を必要とする子どもが過ごしています



保育教諭や友達と様々な遊びを楽しみます。

発達に応じて昼寝をしたり、家庭的な雰囲気の中で過ごしたりすることができるような配慮をしています。



降園時間や保護者の就労に応じて順次降園します。



気持ちを伝えたり聞いたりしながら



生き物や自然に触れながら

友達と協力して



用具の扱い方を知る

試したり工夫したりして

友達と一緒に



様々な感触を味わって

体を動かす楽しさを感じて



## 自分から関わって展開する、「遊び」を通して育っていく時期です。

乳幼児期に、幼保連携型認定こども園で育みたいこと

# 乳幼児期は遊びが学び 一幼保連携型認定

「遊びを通した学び」から

## 乳幼児期の教育及び保育

「遊びを通した体験」を通して、

〈幼保連携型認定こども園の教育及び保育において育みたい資質・能力〉

### 知識及び技能の基礎

遊びや生活の中で、豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かたり、できるようになったりする

### 思考力、判断力、表現力等の基礎

遊びや生活の中で、気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする

### 学びに向かう力、人間性等

心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする

この資質・能力は、小学校以降の教育で育んでいく「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」につながっていきます。

## 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（資質・能力が育まれている園児の、園修了時の具体的な姿）

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿は、個別に現れるのではなく、絡み合いながら現れてきます。

### 健康な心と体

「体を動かすって楽しいな」  
「明日は〇〇の日だから、今日はこれを準備しておこう」  
「これをしたら危ないね」  
「どうしたら安全に遊べるかな」

### 自立心

「今日は当番の日。頑張ろう」  
「自分でやってみよう」  
「諦めないで、もう一回チャレンジ！」

### 協同性

「どうしたら上手くできるかな？」  
「こうしてみない？」「こっちの方がいいかな？」  
「ここを持っていてくれる？」「いいよ」  
「それ、いい考えだね」「私もやってみよう」  
「友達っていいな」

### 道徳性・規範意識の芽生え

「ルールを守ると楽しいね」  
「今はどう行動したらいいのかな」  
「友達はどんな気持ちかな」  
「みんなと心地よく生活できるようにしよう」

### 思考力の芽生え

「ふしぎだね」「どうしてだろう」  
「どうなるかな」「もう一回試してみよう」  
「面白いね」  
「〇〇さん、いい考えだね！」

### 自然との関わり・生命尊重

「ダンゴムシ、見付けたよ」「丸くなった！」  
「野菜は、太陽やお水がご飯なんだね」  
「ウサギのお世話をしよう」  
「こっちに氷ができたよ」「ここにはないよ」  
「どうしてここに氷はできないの？」

### 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

「どっちが勝ったか、数えてみよう」  
「三角の積み木をくっつけると四角になるね」  
「お店の看板を作ろう」「チケットもね」  
「面白い形のサツマイモがとれたよ」  
「表示があれば、どこに片付けるのかわかりやすいね」

### 言葉による伝え合い

「絵本や物語、楽しいな」  
「友達に伝えたいな」  
「〇〇さんの話を聞いてみよう」  
「友達に気持ちが伝わって嬉しいな」

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は到達すべき目標ではありません。また、個別に取り出されて指導されるものではないことに留意が必要です。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、子どもたちの自発的な遊びを通して、一人一人の発達の特성에応じて育っていくものであり、全ての子どもに同じように見られるものではありません。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、園と小学校の円滑な接続を図るための手掛かりになります。

## 小学校以降の教育

小学校以降は教科書などを使った各教科等により、

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

# こども園の教育及び保育において育みたいこと一

## 「各教科等の学習」への円滑な接続

### 資質・能力を一体的に育んでいます。

「\*」は、遊びを通じた体験の例を示しています。



\*友達と関わる

\*順番にする

\*意見の対立と葛藤

\*友達に説明する

\*友達に話す

\*様々な斜度、  
素材で試す

\*転がり方（摩擦・回転  
など）や浮く・沈む  
などに関する発見

\*互いに観察する

\*アイデアを出し合う

\*片付けをする



保育教諭たちは、どのような遊びや遊具、材料などを使って遊ぶことで、これらの体験ができるのかについて、日々、子どもたちの様子を丁寧に捉えたり、計画を立てたり、保育室の環境や教材などを準備したり、関わり方を考えたりしています。

### 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿は、 小学校生活でのこのような姿につながっていきます。

- ・時間割など、生活の流れが分かり、次の活動を考えて準備する。
- ・安全に気を付けて登下校する。
- ・分からないことを先生や友達に聞きながら粘り強く取り組む。
- ・自分の力を発揮しながら友達と協力する。
- ・相手の気持ちを考えたり、自分の振る舞いを振り返ったりなど、気持ちや行動を調整する。
- ・相手の状況や気持ちを考えながらいろいろな人と関わることを楽しむ。
- ・関心のあることについての情報に気付いて積極的に取り入れる。
- ・小学校生活で出会う新しい環境や教科等の学習に興味や関心をもって関わる。
- ・主体的に問題を解決する。
- ・生命あるものを大切にし、生きることのすばらしさについて考えを深める。
- ・小学校の学習に関心をもって取り組み、学んだことを日常生活の中で活用する態度になる。
- ・友達と互いの思いや考えを受け止めたり、認め合ったりしながら一緒に活動する。
- ・伝えたい目的や相手の状況などに応じて言葉を選んで伝えようとする。

（「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」の内容から）

#### 社会生活との関わり

「おうちの方、地域の方、みんな大好き」

「園の近くには、いろいろな人がいるんだね」

「役に立って嬉しいな」

「僕、私が住んでいる場所はこんなに楽しいよ」

#### 豊かな感性と表現

「園庭のお花、きれいだな」

「楽しいから踊りたくなってきた！」

「この材料で作ろうかな」

「劇遊びや歌、楽しいね」

「身体をいっぱい使ってみよう」

※括弧内は、園生活の中での子どもの気持ちやつぶやきを、一つの例として記載しています。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は絡み合いながら現れるため、つぶやきについても一つの姿に限定するものではなく、様々な姿の中で同じつぶやきが見られます。

園と小学校で、子どもの発達と学びは連続しているため、円滑な接続が必要です。それぞれの時期にふさわしい生活を大切にしています。



### 資質・能力をバランス良く育んでいきます。

学びに向かう力、人間性等

これらの資質・能力は、高等教育までつながっていきます。

# 先生たちはこんなことを大切に 子どもたちに関わっています。

## 保育教諭等と子どもたちとの関わり

### 園児の活動の理解者として

〇〇さんはこれをしたんだね。  
どこでだれと何をしているのかな。  
など



### 共同作業者・共鳴する者として

楽しいね。嬉しいね。  
どうしてかな。ふしぎだね。  
など



何かを一方向的に教えるのではなく、一人一人がいろいろな体験ができるよう、一緒に遊んだり、一緒に考えたり、一緒に見つめたりしています。

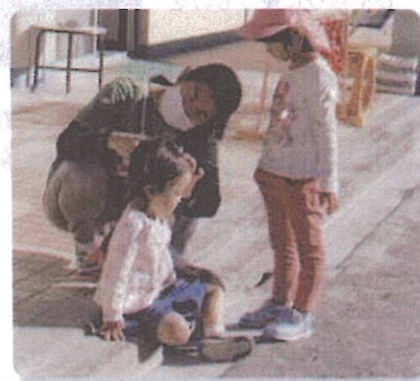
### 遊びの援助者として

こうしてみたらどうか？  
一緒に遊ぼう。一緒に考えよう。  
こんな材料もあるよ。  
友達がお話しているよ。  
など



### 憧れを形成するモデルとして

先生大好き！  
私も同じようにやってみたい。  
など



生命の保持や  
情緒の安定など、  
養護を基盤にして

### 心のよりどころとして

先生がいれば安心。  
先生は気持ちを分かってくれるよ。  
など

言葉を掛ける・見守るなど、そのときにその子にどんな援助が必要なのかを考えながら関わっています。



子どもたちと一緒に過ごしながら、一人一人の子どもが安心して生活し、幼保連携型認定こども園で育みたい資質・能力（6・7ページ）を育ていけるように関わっています。



# 先生たちはこんなこともしています。

## 子どもたちを理解するために



☆ 遊びや生活の様子を振り返りながら子どもたちの様子を記録し、「子どもたちが感じていたこと」「考えていたこと」「体験していたこと」などを捉えるようにしています。

☆ 「明日はどのように子どもと関わるのか」や「どんな遊びをするのか」なども考えています。

子どもたちが発達に必要な体験ができるように、様々なことを考えたり学んだりしています。

遊んだことや心身の状態などを伝え合い、一日を通して遊びや生活が充実するようにしています。



子どもたちの発達の状況や指導の計画などを理解し合い、同じ目的に向かって子どもたちを育てていくようにしています。

「この遊具や材料でこんな遊びができるかな」「何をどこに置いたら楽しい遊びや子どもたちの安心につながるかな」などと考えながら、遊びや遊びに使うものを研究しています。



園内の研修や園外の研修に参加し、子どもの発達につながる遊びやふさわしい援助などについて共に学び合っています。

## ～園から小学校へ～

～個人面談での保護者と保育教諭の会話より～



保育教諭と小学校の教師が、一人一人の育ったところや、これから育ててほしいところなどを伝え合い、安心して就学を迎えられるようにしています。



保護者

1年生になるまでに何をしないといけないの？ 字が書けないといけないのかな…。

乳幼児期に育みたい力を育てていけるよう、いろいろな体験を大切にしていきたいです。乳幼児期は、標識や文字に親しむ体験を重ねる中で、標識や文字の役割に気付いたり興味や関心をもったりすることが大切です。



保育教諭



保護者

園で、お店屋さんごっこの看板・メニューや道路標識などを作って遊んだり郵便屋さんごっこをして遊んだりしている様子をよく見ますね。

鉛筆の正しい持ち方や字の書き方は、小学校で丁寧に教えてくれますよ。\*



保育教諭

※小学校学習指導要領では、1・2年生の「国語」の中で指導することになっています。

ご家庭では、入学が楽しみになるようなサポートをしていけるとよいですね。

# 様々な人と出会い、多様な体験を重ねています。

## 様々な人との関わりの中で

異年齢の関わり



小学校教育との連携・接続



地域の方との交流



中学生との交流



異年齢での関わりや、地域の小中学生、地域の方など、様々な人々と出会い、関わる中で、豊かな生活体験を得られるよう、乳幼児期にふさわしい生活の場を作っています。

保護者や地域の方と連携しながら、食に関わる体験も積み重ねています。

## 健康や安全に関すること

発達に応じた指導を重ね、遊びを通して自ら危険を回避する力を身に付けていくことができますようにしています。



健康・安全に必要な習慣や態度を身に付けられるようにしています。



# 看護師や栄養士などの専門性を生かしながら、健康や安全、食育などに関する取り組みを大切にしています。

## 園で過ごす子どもの保護者や 地域の子育て家庭への子育ての支援を行います。



保護者同士の交流の場や保育参加など、様々な機会を活用して、子育てに関する相談・援助、情報提供などを行ったり、園と保護者が子どもの成長を伝え合いながら、相互理解を図ったりしています。



### 家庭と連携して



保育教諭たちの専門性や幼保連携型認定こども園の特性を生かして、安心な子育てが広がるよう、様々な取り組みを行っています。



一人一人の子どもの存在そのものを尊重し、子どもの立場に立った子育ての支援を行っています。



### 地域と連携して

地域の実態を生かし、関係機関や専門機関、地域の人材などと連携しながら、地域の子どもが健やかに成長できるような環境を提供しています。



園・家庭・地域が連携しながら、子どもを育てていきます。



認定こども園の概要など、詳細については、  
内閣府ホームページをご覧ください。

認定こども園の概要



幼保連携型認定こども園教育・保育要領 / 実践事例集 /  
保育教諭等のための参考資料など



子ども・子育て支援新制度なるほどBOOK

(平成 28 年 4 月改訂版)



内閣府  
文部科学省 厚生労働省